

## 3-6. 赤城山エコツーリズム推進準備会（群馬県前橋市）

### (1) 地域の概要

#### 1) 前橋市の概要

##### 【人口】

340,012 人（平成 26 年 9 月末日現在）

##### 【地勢】

前橋市は群馬県の中央部よりやや南に位置し東京から北西約 100 キロメートルの地点にあります。市域の北部は上毛三山の雄、赤城山に至り、北から南に向かって緩やかな傾斜となっています（最も高いところは赤城山（黒檜山南面）の海拔 1,823 メートル、最も低いところは下阿内町（しもあうちまち）の 64 メートル）。市の中央部から南部にかけては、海拔 100 メートル前後の関東平野の平坦地が広がり、本市を両分する形で南流する利根川の両岸に市街地が開けています。

##### 【面積】

311.64 平方キロメートル。群馬県の面積の約 4.9 パーセントを占めています。以上前橋市が中心になりますが、赤城山を中心にして渡良瀬川の西、利根川の東、JR 両毛線の北を活動範囲とします。その中には東側は桐生市の一部、西側は渋川市の一部が含まれます。

##### 【気候、自然】

北西に連なる赤城、上信越の山々に囲まれて、やや内陸性を帯び降雨量は少ないほうです。年間の平均気温は 14 度から 15 度ですが、気温の差は大きいので四季の変化に富んでいます。例年 11 月から翌年 4 月にかけて晴天が多く、北西の季節風が吹き、特に冬期の風は強く、俗に「赤城おろし」と呼ばれています。6 月から 8 月にかけて、南東の風が吹きます。夏期は気温が高く、激しい雷がおこります。

##### 【歴史】

前橋は古くは「まやはし」と称しました。「厩橋」が「前橋」に改められたのは西暦 1648 年から 1652 年、酒井忠清が城主であった頃だと言われています。

「厩橋」の名は、現在利根川の流れているあたりに車川と称する流れがあり、そこにかかっていた橋を「駅家（うまや）の橋」と呼んだことから、自然に地名になったと伝えられています。

前橋市域には、700 余基もの古墳がありました。この中には、東国では最も古いとされる天神山古墳から、終末期古墳の典型とされる宝塔山古墳に至るまでの各期のものがあります。また、墳丘や石室にも巨大なものがあり、副葬品にも優秀なものが多く出土しています。こうした優れた古墳文化を背景として、律

令体制の中にあつては、国府設置の場となり、上野国の政治的中心地となりました。このため国分寺や山王廃寺などの建設される所となり、仏教文化の華が咲きほこりました。

群馬（くるま）の郡、駅家（うまや）の郷、群馬（くるま）の駅など前橋の地名が出てくるのが10世紀平安中期で、平安から鎌倉時代にかけては、日輪寺の十一面観世音像、善勝寺の鉄造阿弥陀如来座像がつくられました。

厩橋城が築かれたのは文明年間（1470年代）とされていますが、この城は戦国時代、上杉・武田・北条氏等の攻防の的となり、特に永禄10年（1567年）の戦いでは、武田・北条氏のために、当時繁栄していた天川原、六供方面の町並みが焼き払われ、街の中心は旧利根川の河原であった低地に移りました。これが現在の中心街です。（利根川の変流は1400年代だと言われています。）

徳川時代になって酒井氏が川越から移って城主となり、9代150年の長きにわたって城主となり、その後松平氏に代わりましたが、松平氏は利根川の洪水による城地決壊のため、わずか19年で川越に移城し、前橋は99年の間廃城の状態が続きました。このため街は衰微の極に達したので、城の再築を願って街の復興を図り、慶応3年（1867年）松平氏を再度前橋に迎えましたが、まもなく明治維新となりました。

これより先、前橋の主産業の製糸は安政6年の横浜開港と藩主松平氏の奨励により盛んとなり、明治に入って「糸のまち」前橋の名はますます高まりました。明治14年に県庁が前橋に置かれることになって街の繁栄の基礎が築かれ、部、南部の両耕地整理、昭和に入って上水道を布設しました。太平洋戦争終結の直前、すなわち昭和20年8月戦災を受けて中心市街地の8割を焼失するという被害を受けましたが、これを機に戦災復興事業を施行して市の復興を図るとともに、昭和29年以来近接町村を合併して市域を拡大し、昭和35年には消費都市から生産都市への転換を目標に、首都圏都市開発区域の指定を受けて工場誘致を実施し大いに成果を上げました。

また、近代的都市建設のための都市改造事業、区画整理事業等を積極的に進めるとともに、昭和42年5月に城南村を合併しました。

平成13年には特例市の指定を受け、平成16年12月5日には、大胡町・宮城村・粕川村と合併しました。平成21年4月には県内初の中核市へ移行するとともに、5月5日には富士見村と合併し、平成24年には市制施行120周年を迎え、さらなる飛躍を続けています。明治22年町制を施行、同25年県内最初、関東で4番目、全国で41番目に市制を施行しました。

#### 【観光】

四季を通じて赤城山観光があります。

春：山上のアカヤシオツツジ、に始まりレンゲツツジ、シロヤシオツツジ、トウ

ゴクミツバツツジ、等 6 月初旬～中旬が最盛期で人出も駐車場を探すのに大変になるほどです。

夏：覚満淵（小尾瀬ともいわれ）の花々（ニッコウキスゲ、ノハナショウブ、カラマツソウ、等）、句碑巡り

秋：10 月中旬の紅葉、

冬：雪祭り、ワカサギ釣り、そり遊び、スノウシューによるトレッキング 等

1 年を通して、赤城 7 峰の登山、特に百名山に指定されている黒檜山は多くの登山客が来ます。中腹には赤城温泉および 4 か所の日帰り温泉が賑わっています。

#### 【地域資源の概要】

赤城山は明治の初めから多くの文豪（志賀直哉、太宰治、武者小路実篤、与謝野晶子、等）がこよなく赤城山を愛して訪れており、その足跡や資料も多数あります。因みに文人グループ白樺派は赤城の白樺から命名されております。

日本のウインタースポーツの発祥の地の一つです、特にスキーでは、コルチナダンペットで開かれた冬季オリンピックで猪谷千春（元 IOC 委員）氏が銀メダルをとりましたが、その父猪谷六合雄がジャンプの日本記録を何回も塗り替え、昭和 3 年には赤城でジャンプの国際大会が行われました。（両名とも赤城出身です）

来年の大河ドラマ「花燃ゆ」は群馬県の初代県令楢取素彦とその妻文を取り上げ主に前橋が舞台になります。

農産物では梨、りんご、ブドウ、小麦 等「赤城の恵み」として売り出しております。

畜産が盛んです。とんとんの町前橋として売り出しておりイメージキャラクター「ころとん」もあります。

赤城の湧水を利用した酒造メーカーが 3 か所あり、見学、試飲が可能です。

日本棚田百選にしてされている室沢地区棚田があります。

施設は、ぐんま昆虫の森、サンデンフォレスト、ドイツ村、ぐんまフラワーパーク、電力中央研究所、国立赤城青少年交流の家、前橋市立赤城少年自然の家

赤城自然園、音羽倶楽部、バラ園、前橋文学館（萩原朔太郎顕彰施設）

赤城山環境ガイドボランティア養成講座の修了生が 6 年目となり 130 名を超えました。

赤城山検定 3 級の合格者は今年で 2 年目になりますが、73 名になります。

赤城を語る人材のネットワークがあります。

## (2) アドバイザー派遣申請の背景

---

### 1) エコツーリズムの取組にいたる準備会の設立趣意書

#### ①設立の趣旨

群馬県の上毛三山の一つで日本百名山でもある赤城山は、標高 1,828 メートルの黒檜山を主峰として、その他の外輪山に囲まれた火口原に大沼、火口湖の小沼が水をたたえ四季を通じて自然に親しむことができます。

春は、50 万株のツツジが咲き競い、夏は、ふもとから比ベマイナス 10 度の涼を求めて多くの人が訪れ、秋は、色とりどりの紅葉にいろどられ、冬は、一面白銀の世界に包まれ、大沼、小沼は全面結氷します。

私たちは、この赤城山と周辺地域の資源を子ども達に継承していかなければなりません。

しかし、このような自然環境ゆたかな赤城山周辺への観光客も年々減少し、ピーク時の半減状態を低迷しております。多くの人が集まる地域、人が人を呼ぶ地域を目指す中では、赤城山を観光する人が生態系に影響を及ぼすことなく、生物多様性の保全に留意し、自然環境、歴史文化資産を保全しつつ、自然を楽しむことができる活用方法を早急に導入することが急務となっています。

これを実現するためには、赤城山周辺地域住民が、この貴重な自然環境の共有を図り、その価値の保全と自然環境、歴史文化資産を有効に活用し、地域振興を図り持続可能な地域づくりを目指すために一体となって取り組んでいくことが必要となります。

#### ②目的

このような認識のもと、エコツーリズムを通じて赤城山周辺の地域振興や、自然環境、歴史文化資産の保全と、それらを推進する次世代人材、後継者人材の育成を行うことを目的として、赤城山エコツーリズム推進準備会を設立したいと考えております。

エコツーリズム推進法の基本理念にある「自然観光資源が損なわれないよう生物の多様性を保全しながら、元気な地域社会をつくる」エコツーリズムは有効な手段であると考えられます。

「エコツーリズム推進基本方針」にある、エコツーリズムを推進する意義は「ルールの設定による自然環境の保全とそれに関する行動による効果」「地域固有の自然環境や生活文化の魅力を見直す効果」「新たな観光振興の可能性などに加え、持続的な地域づくりへの効果」などが相互に影響し合い、好循環をもたらすことにあるとされています。

これらの効果を生み出すエコツーリズムは、この赤城山地域の発展、向上に寄与するものと確信しております。

皆さまのご賛同をいただければ幸いです。

### (3) アドバイザー派遣の概要

|           |                                                                                                                              |                                                                       |         |   |                             |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------|---|-----------------------------|
| 日         | 時                                                                                                                            | 平成 26 年 11 月 11 日 (火)<br>平成 26 年 12 月 2 日 (火)<br>平成 27 年 1 月 20 日 (火) |         |   |                             |
| 場         | 所                                                                                                                            | 群馬県前橋市                                                                |         |   |                             |
| ア         | ド                                                                                                                            | イ                                                                     | ザ       | ー | 文教大学国際学部国際観光学科 准教授 海津 ゆりえ 氏 |
| 参         | 加                                                                                                                            | 者                                                                     | 合計 37 名 |   |                             |
| スケジュール・方法 | 【1回目】<br>・講演：「エコツーリズムの理解と進め方」<br>【2回目】<br>・視察：サンデンフォレスト株式会社、県立ぐんま昆虫の森<br>・講演：「地域の宝さがしについて」<br>【3回目】<br>・グループワーク<br>・討議、総括、講評 |                                                                       |         |   |                             |

### (4) アドバイスの内容

#### 1) 【1回目派遣】

#### 第2回 赤城山エコツーリズム推進協議会発足に向けた 準備会

##### ①講演「エコツーリズムの理解と進め方」

海津先生：

今年のゼミ生に4人も群馬県出身者がいます。これは何かの始まりかもしれません。また、群馬県は尾瀬があり自然保護の発祥の地とも言えます。

エコツーリズムは急いで結論を求めるのではなく、大きく育てていただきたい。私自身もお手伝いが少しでもできればと思っています。

今日は、新たにエコツーリズムについて学んでほしいと思う。準備会というのはこのような勉強会を重ねていくことだと思う。

エコツーリズムはかなりグローバルな動きである。求められることが多くなっている。会社のCSRとしても全国民が注目している。

観光はかわりつつある。旅行者が個人型になり、旅行社離れをしている。地域は少子高齢化している。地域の生き残りの中でも観光は注目されている。また、3.11以降、誰かの役に立ちたいと思う人が増えている。エコツーリズム協会の調査では「行った先で、自然や文化、人との交流を求める人、知的な満足を求めている人」の割合は、1999年に55.6%が今は9割以上の人がそういうことに参加することを求めている。自然と触れ合うニーズは高まっている。

作ったものではなく、本物と出会える「真正性」を求めている。

今は、観光の担い手と地域づくりの担い手が一緒であり、地域の中に観光資源

がある。観光の専門家だけではニーズに応えきれない。農家が頑張ると観光が栄える。

エコツーリズムとは、推進法の中では、自然観光資源の保護に配慮をしながら、それにふれあい、知識や理解を深める活動と定義している。地域振興が入っていないが、結果として付いてくるものだという理解。

エコツーリズムの発端は、1980 年前後から海外で始まった。コスタリカやケニアやタンザニアの東アフリカなどで課題の克服としてスタートした。野生生物の保護と観光の両立をめざし、殺さないで見るだけの観光をエコツアーと呼んだ。

日本では、西表島で1990年ころから始まったが、これを仕掛けたのも環境省である。地元は資源だけ使われていたが、国立公園とその周辺でツアーをつくり、経済を地域内で留めるようにした。

そして、2003年にエコツーリズムの推進調査を行い、2007年にエコツーリズム推進法をつくった。環境省のページにエコツーリズム総覧というデータベースがあるので見てください。

53地域から手が挙がり、13地域をモデル地域として選定。3年間年間500万円の予算を分配して始まった。カテゴリーは3つに分かれていて、一つ目は自然豊かな地域。これはいずれもその後、世界自然遺産になった。二つ目は、もともとの観光地をエコツーリズムにシフトしたいと思っている地域。

三つ目は、里山地域で、これが一番手を挙げた地域が多かった。

里山は、観光とは縁がなかった地域で外から人を受け入れることが課題。裏側の意図は地域にずっと在った食べ物や文化の伝承保全がおおきな課題としてあった。これが「日本型エコツーリズム」と呼べるのではないか。

日本はバリエーションが多い。ひとつのエリアでも二つの資源があるところもある。

エコツーリズムは、「守っていく、伝えていく、つないでいく」ことがテーマでありそれが理念としてある観光を言う。また観光の原点として「国の光を観る」という中国の占いの本の言葉が素で、『光』は地域の宝を示している。そして地域の資源を活用するコミュニティービジネスである。

図のようなきれいな三角形が理想で、資源の保全が小さくなると経済追求型になってしまうので資源が続かないものになってしまう。

二つ目の特徴は、進めていくにはいろいろな方の参画が必要で、図のような5つの主体が必要。ルール作りなどは研究者や専門家の役割で、行政は、地域を繋いだり、人材育成また自治体の基本構想に載せていくことで裏付けをしていただくことが必要。

エコツアーは、エコツーリズムを形にしたツアー商品である。自然を体験するだけではエコツアーではなく、自然の切り売りになってしまう。体験の理由が地

域と結び付きがあることが必要。

岐阜県の飛騨地域では、外国人の参加がすごく増えている。

エコツーリズム協会では、エコツアーの良い基準を出している。

ディープでアドベンチャー的なものばかりではなく、子どもたちが参加できるバリエーションをつくるとか、マストツアーの中にちょっとしたエコツアーを取り入れているところもある。いろいろなバリエーションがある。

事例として、西表島では94年に準備会が始まり、島の方々が島のガイドブックを作成し、その出版記念パーティーをきっかけに島の方だけでエコツーリズム協会が始まった。メインは島の文化を伝えていくことをやっている。ツアーは参加者がつくればよい、という発想。

小笠原は、1989年からホエールウォッチングが始まりで主なツアーの対象はほぼ動植物である。ガイドさんたちが自主ルールをつくっている。

無人島は東京都が育成した認定ガイドしか案内できない仕組みも作ってある。

知床は、マストツーリズムからエコツーリズムにシフトした場所である。ホテルも大きいものが4つくらいあり、ここで自然情報を流している。

尾瀬は、県条例により小学校5年生が尾瀬自然学校に参加することになっていて、それによりガイドもビジネスとして生計が立つ仕組みになっている。裏磐梯は、大きな予算をかけないで、毎年住民参加型で自然をモニタリングしている。毎年の調査で自然の変化が解るようになっている。

長野県軽井沢町では、星野リゾートの敷地内で行っている企業型ツアーである。毎朝9時から2時間ツアーがあり、予約なしでも参加できる。

徳島県の吉野川では、石積職人から技を学ぶという小さなツアーをやっている。職人はもう一人しかいない。毎年大学生が実習に来てツアーを支えている。

白川村では、木の皮のヒデ細工。飯能は、エコツーリズム推進法認定第1号で、林業が疲弊する中、新しい試みとして市長のトップダウンで始まった。市民総ガイドを目指している。

岩手県宮古市は震災復興を兼ね、神社に神楽がありそこまでトレッキングをするツアーと、トレッキングと防災ツアーもある。

飛騨古川は自転車ツアー。長いコースと短いコースがあり、海外で浸透して外国人の参加が増えている。高山に来ている外国人が流れてきている。

高山は市街地ではなく郊外のNPO主体で普及の実証実験をしている。

三重県鳥羽では、今年推進法の認定を取った。離島ガイドを小学生が総合学習と連携してやっている「島っ子ガイド」を行っている。3年生からガイドになり、1～2年生は見習いで付いていくだけ。5～6年になるとベテランである。うまくいっている。

このようにいろいろな地域があり、赤城とつながるところとそうでないところ

があると思う。

地域の宝探しをすすめるには、まず宝と思うモノ出し合うことが必要。それをそのまま売っていかうとするとたいがい行き詰る。宝の意味を調べ、地域の人でまず伝えるツアーをしてその価値の確認をする。実証実験をして自信がついたらツアーにしていく。

宝さがしの切り口は、『自然、生活環境、歴史・文化、産業、名人』である。徳之島では、ひしゃくでほうじ茶を泡立て「ふり茶」というものがある。また、夕方には有名な闘牛の牛が散歩をしている。このようなことは、行かないと見えない。これらを宮古市では、学生も参加して月別のカレンダー作りをして整理している。

地域が持っている宝をストーリーとして伝えることにより、それが素敵な体験となれば「もう一回来よう」となる。1回だけでは、地域活性にならない。

協議会をつくったらそこに首長さんが入る。議論を続け全体構想をまとめる。これが通れば国が認定地域として認められる。

鳥羽市の例では、必要性の理解、自治体の理解、ワークショップ、協議会メンバーの役割、予算(鳥羽では30~50万円)く

認定に向けたプロセスを淡々と進めていく。

赤城ではまず、宝探しをしながら地域の理解を深めることが必要だと思う。

共通理念をつくる必要がある。

## ②質疑応答

Q1：エコツアーは首長が中心になるとの話であったが、エリアによっては広域になり、複数市町村にまたがる場合はどうなるか?

A1：沖縄の慶良間では、渡嘉敷村と座間味村で海域を共有し、二人の村長がサインをしている。協議会は両村にある。奄美にも同様の例がある。赤城は、陸続きの広域になるので良い事例になるのでは。

Q2：さきぼと外国人のツーリストが増えているとの話だったが、省庁の動きはありますか?

A2：観光庁は動いている。プロモーションをやっている。また、多言語化の動きはある。観光庁が本を出している。

Q3：裏磐梯で住民参加のモニタリングをしているとのことだが、どんなことをしているのか?

A4：10項目くらいある。まずば、水質調査。ザリガニ、オウハンホンソウという植物の調査。野鳥の会が毎週調査している。さらに熊棚の調査。湖周辺のトレッキングコースの景観保持のためにアシ狩り。外来の水草調査などを福島大学、エコツーリズム協会、ビジターセンターなどの協力で行っている。

Q5：農家民泊など旅行業法や消防法の問題にならないか?

対処方法、セミナーなどはあるか？

A5：関係者を呼んで勉強会をする必要があろう。また、車でガイドすることも推進法を取るメリットである。

通訳案内・ガイドなどもルール違反を黙認している部分もある。

## 2)【2回目派遣】

### 第3回 赤城山エコツアーリズム推進準備会

～グループワーク「宝さがし」～

(数字)は同じ意見の方の数です。

#### ①生活の宝

##### ○チームA

後閑養鶏のプリン、昭和村の生クリームのシェークリーム、キャベツ、ハウレンソウ、田口菜、粕川納豆、宮内菜、時沢大根、石倉ネギ、とうもろこし(赤城県道沿い)、とうふ、豚肉、とんとん広場のしゃぶしゃぶ、鮎、そば(3)、おつきりこみ(2)、良農園の野菜、焼きまんじゅう(2)、酒、キノコ狩り、青木山荘、塩原蚕種(2)、赤城型民家、黒沢家住宅、やぐらのある農家、防風林、赤城神社のお祭り(3)、ムカデ伝説、上州座繰り、飛石稲荷、つっかけまんどう祭り、雪まつり、月田のさらち、赤城神社えんむすび、名峰赤城

##### ○チームB

林牧場のソーセージ、つめっこ汁、時沢大根、赤城山日本酒、ぶどう、赤城神社、えんむすび、数が多い(2)、むかで伝説(2)、戦場ヶ原、1200年の歴史、円筒型分水、赤城おろし、国定忠治の岩屋、大胡ぎおんまつり、大胡荒れじし、幕府埋蔵金、赤城やま(唯一やまと読む)、赤城姫渕名雄等伝説、建物基礎が2m

##### ○チームC

伝統料理、そば、うどん、日本三大うどん、田口菜、時沢大根、養蚕農家、神社、立志式、山伏、滝行、国定忠治、国定駅、方言、赤城と日光の戦い、大前田英五郎、徳川埋蔵金、女性が働く、メディア発信

##### ○チームD

とんとん、生ハム、切り干し大根、干し柿、そばかぎ、自然の氷、赤城型民家、人なれ、民話、木の器、木のおもちゃ、陶芸、トナカイの角

##### ○チームE

おつきりこみ、焼きまんじゅう(3)、室沢棚田の米、赤城の湧水を利用した酒、粉の文化(ひもかわうどん、パスタ)、漬物、醸造酒しょう油蔵、ななめ間口と敷地が長い、赤城神社(3)、貴船神社、威光寺にある赤堀道元の姫の帯、養蚕塩原蚕種、赤城型民家、二之宮・三夜沢・大洞の赤城神社、阿久沢家住宅、織物、鍵屋根

## ○チームH

ワカサギ料理、時沢上泉大根、うどん、粉文化、ホウレンソウ、おっきりこみ、酒、二毛作地帯(米・麦)、リンゴ、ブルーベリー、焼きまんじゅう、手作りみそ、養豚、養鶏、赤城の恵み、上毛かるた、そば街道、トウモロコシ街道、山椒つみ、栗ひろい、キノコ狩り、だんべ踊り、初市まつり(だるま)、信仰の山、水争い、古道、切りバラ、赤城神社、粕川の棚田、アイスバーン、城、鈴が岳・地蔵岳のお社、薪割りストーブ、キャンプ場、防風林、国定忠治、釣り、青木旅館の屋根と廊下、古墳、明治～大沼の製氷業、4月8日山開き、運動会(上毛三山リーグ)、空っ風、大前田英五郎、伝説

## ②自然の宝

### ○チームA

市内から1時間以内でスキー場、赤城山スキー場(そり遊びのメッカ)、あじさい園(荻窪)、降雪赤城山、結氷大沼、標高700mk道沿いツタウルシ、大桑の木(音羽倶楽部)、鳥がみられる場所、天然温泉、千本桜+芝桜、鳥居峠の霧景色がきれい鍋割山、富士山が見える長七郎山、スカイツリーが見える鳥居峠、つつじ(2)、珍しい動物、紅葉と霧が同時に見える箕輪地区、大沼(2)、小沼、覚満淵(3)、鹿が多い、紅葉、西林寺、上泉伊勢守の墓、桃木川の土手から見る赤城山、鳥見小屋、星がきれい(2)、ハイキング、登山、市内と山頂との温度差10℃、眺望・スカイツリー東京タワーサンシャイン

### ○チームB

イノシシ、タヌキ、鹿、水、千本桜、雪、御神水、サントリー、氷、乙女滝、ホタル、棚田、ジャンプ台、赤城神社、からっ風、温泉、大沼、ケーブルカー

### ○チームC

桑畑、キャベツ、湖、田口のホタル、大沼(3)、小沼(2)、スキー場、広瀬川、風呂川、赤城おろし、空っ風(2)、不動大滝、伝説、河岸段丘、大洞の牛、ニッコウキスゲ、つつじ(2)、白樺(2)、千万桜、笹、嶺公園のミスバショウ、リンドウ、星空、夜景(5)、花火(2)、眺望・スカイツリー富士山、高山植物、紅葉、覚満淵、湿原、百名山、ワカサギ(2)、末、松枯れ、朝焼け、イノシシ、鮎、雷、日照時間が長い、上毛三山、山付近の道、赤城山の景色、鹿

### ○チームD

富士見からの夜景、鳥居峠から見る覚満淵、鳥居峠から見る朝日、ホタル(2)、おとぎの森のミズナラ(2)、野菜がおいしい、粕川町中之沢の湧水、自然豊かなキャンプ、水がおいしい(2)、赤城おろし、溪谷(渡良瀬川沿いの橋)、渡良瀬の四季、沢入の白御影石、大間々の崖、滝、清流の魚や生き物、すそ野の広さ、サンデンから見る夜景

### ○チームE

赤城神社、覚満淵、遠望景勝、夜景、レンゲツツジ、赤城神社のでかい鯉、ワカサギ、紅葉、千本桜、赤城自然園、雷、すそ野の長さ2位、木の皮、雪山、アスピリンスノー、富士山、湖・大沼小沼

### ○チームF

松枯れ、富士山が大きく見える(2)、星がきれい(3)、大鷹、ヒメギフチョウ、からっ風(3)、ホタル、オオムラサキ、おとぎの森(癒しの空間)、空気が澄んでいる、いつでも山へ行ける、赤城山コース、高山植物、標高がいきなりに上がる、赤城山の各登山コース、大沼小沼のカルデラ湖、夜景、白樺林、夏涼しい(2)、白樺牧場はレンゲツツジ、秋の景色、雪質がよい、霧氷・風氷、すそ野が広い(2)、ミズナラ、ブナ、不動様、水がきれい、雪質がよい・パウダースノー、前橋から1時間の避暑地、氷上ワカサギ釣り、鳥居峠からの雲海

## 3)【3回目派遣】

### 第4回 赤城山エコツーリズム推進準備会（議事録）

#### ①海津アドバイザーによる総評

（グループワーク）お疲れ様でした。前回引き続き、たいへん盛り上がったと感じる。私もこの地域の住民だったらぜひ入りたい思えるほどでした。よかったことはグループの中で「へ～それは知らなかった」というような反応があること。ある意味、（それを説明している）あなたこそが「名人」として自分の名前を書いてもよいくらいだと感じた。

宝さがしの総括として、この赤城山には非常に大きな可能性があるということを実感した。今回の集まりだけでなく、引き続き宝さがしは続けていただきたい。

さて、赤城のエリアは、たいへん自然が厳しいところである。冬は寒く夏は暑い、厳しい自然のある地域では、人が生きていくために知恵が蓄積されている。（発表の中でも）いろいろな知恵が生きていると思う。

さて、少し『名人』の掘り起しが少ないとも思う。

名人には物語がある。ぜひ名人に話を聞きに行ってみてほしい。

これから宝を磨いてほしい。それは自分が知っていることを、他人の意見で別の角度の知識が加わり深まっていくことである。

モニターツアーの目的は宝を誇る活動である。まず身内でやればよい。自分が宝だと思うものを人はどう思うかである。楽しんでほしい。

宝は『点』でツアーとは、それを結んで物語にすることである。

いきなり外に売らずに、焦らないで発信できるものを見つける。新しい宝も見つかる。

推進協議会をつくるということは、何を伝えるか、大事にしたいもの、たとえば国産の鶏は少なくなったとか、なぜ赤城で豚を買うのかなどの意義を共有して発信する。ブランドをつくっていくことが推進協議会である。伝えていく仕組みを作っていく中で「赤城ならでは」のものではできてくる。

宝の何かを捨てる必要はなく、多様であればあるほどいろいろな人たちが魅力を感じる。学生が知らないことに驚くことがあるかもしれないが、年齢や環境によって生きている世界が違うもので、それを伝える方法をたくさん活かしてほしい。

そんな中、モデルになるのは埼玉県の認定第1号の飯能市である。ここは、「市民総ガイド」を目指している。市民が作ったツアーを市が発信するシステムでいろいろなツアーを発信していて、リピーターも増えている。

赤城でも、鉄道を使ったツアーや食にこだわるものや名人を訪ねるツアーがあってもよい。そして、宝さがしを続けながらカレンダーにしていく方法もある。

みんなでわいわい言いながら続けていくことである。 以上

## (5) アドバイザー派遣実施の効果

---

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた（エコツーリズムとは何か、について従来型のマス観光との違いなどについて共通理解ができました。）

今まで課題としていたことがより明確になった（具体的内容：地域や業種ごと個々に取り組んでいた観光について、エコツーリズムの旗の下で一つになれたような気がしています。勝負はこれから。これらをどのように結び付けていくかです。）

今までの課題に対して取組方が分かった（いいものをちゃんと広報していくこと。群馬県人の特徴とも言えますが、発信力が弱い事の自覚ができてきたと感じています。具体的な方法を模索したいと思います。）

今までとは別の課題が明らかになった（これはこれからだと思います）

### 2) 今後期待される効果

農業、工業、商業、畜産業、交通関係者など地域の異業種の方々が同じテーブルで話をする事そのものに意義を感じています。

### 3) 今後の取組

「宝さがし」で抽出した資源について、高崎経済大学の水口先生のゼミ生による資源モニタリングを行い。それをもとに「赤城山エコツアーカレンダー」を作成。

2月21日（土）には、今までの準備会の進捗状況の報告会を兼ね、シンポジウムを国立赤城青少年交流の家で行う予定。

3月には、有志住民によるモニターツアーを2回実施する予定。

夏をめどにエコツーリズム推進法にのっとりた協議会発足に向け、月1回のペースで委員会を開催していく

## (6) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

- ・エコツーリズムについて、共通理解が得られた。
- ・地域の異業種の方々が同じテーブルで話をする事に意義を感じた。

【記録写真】



1月20日「宝さがし」第2弾 グループワークの様子



海津アドバイザーによる総括の講義の様子



グループワークの写真

## (7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

文教大学国際学部国際観光学科 准教授 海津 ゆりえ 氏

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

対象地域は赤城山、わたらせ溪谷、利根川、両毛線に四方を囲まれた一体的な空間である。スカイライン、河川、交通によって分断された行政域をまたいだエリアで、赤城南麓として古くから人流・物流両面から交流があった地域である。同地域で信頼度が高く、自然保護活動の歴史と実績のある「赤城自然塾」を事務局としてエコツーリズム推進法による認定地域を目指しており、今回のアドバイザー派遣事業はその支援活動となる。

「赤城山エコツーリズム推進協議会発足に向けた準備会」が平成 26 年 10 月 16 日を第 1 回として開始、平成 27 年 1 月に第 4 回を実施し、2 月 21 日に「赤城山エコツーリズム推進協議会」設立総会を迎えるに至っている。

#### ②課題

協議会設立や、その後の認定取得までのロードマップを描き、計画的に準備を進めておられるため、プロセスにおける課題は少ないが、観光振興に課題を抱えていることやブランディングへの課題等を背景として自治体や企業、文化施設や個人商店等幅広く多様な人材をメンバーに擁していることから、今後の組織づくりや商品開発、広報、受け入れ体制などの一連の体制作りが課題であろう。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

①赤城<sup>おろし</sup>嵐と国定忠治で有名な赤城山麓の一体的な風景とスケール感、空の広さは他にない魅力である。赤城山の恵みは水、土壌、まだ若い森林、広い敷地を活かした様々なビジネス等に及び、ジオパークとしての資源の生態系を築いている。

②厳しい気候と火山という特殊な自然条件が育んだ食は年間を通じて多彩である。食の魅力は旅の原点である。

③豚の牧場と地産地消レストランや自然保護活動等の CSR に力を入れる企業、造り酒屋や起業農家、地域の魅力掘りおこしに力を入れる鉄道会社など、赤城山と結びついた多様なビジネス。「なぜここでこのビジネスなのか」、のストーリーができていく。数々の伝説や日本史に登場する歴史エピソード、いわれなどが多数。集落や寺社等、まちあるきの範囲でも出会える資源も豊富である。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

アドバイスは①第 2 回準備会・②第 3 回準備会・③第 4 回準備会の 3 回に亘って行った。各々の議題とアドバイス内容は以下のとおりである。

①第 2 回：2014 年 11 月 11 日

第1回準備会の際に桜井良維英氏より、エコツーリズム推進法について講義を終了していたため、「エコツーリズムとは何か」に焦点を絞り、講義という形でアドバイスをを行った。要点は次のとおりである。

- ・エコツーリズムの定義、歴史
- ・エコツアーの多様性(多様な事例の紹介)
- ・エコツーリズム開発の進め方

宝探しとエコツアーの実施の並行実施を勧め、次回以降は宝探しを取り入れることとした。

#### ②第3回：2014年12月2日

宝探しのワークショップのため、実施方法の講義を行う。宝探しは自然、文化を取り上げてグループワークで行った。高崎経済大学学生や市職員も加わり、世代や立場を越えた作業が開始された。狙いは宝の再確認と、エコツアーにどのように結びつけるかをボトムアップ型で考えてもらうことである。

#### ③第4回：2015年1月20日

宝探しワークショップの2回目として、歴史、産業、名人についての宝の掘り起しを行った。前回メンバーに新しい参加者を加えて賑やかに実施された。グループ内に語り部を発見するなど収穫があった。

次回は事業外で3月20日に行う。

### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

#### ①全体構想への取組状況について

全体構想を作成することを前提として協議会を発足している。2015年2月21日に協議会が正式に発足したところである。今後はスケジュールに乗って構想提出までスムーズに進むものと思われる。

#### ②全体構想認定に向けて、今後必要なこと

本地域は、自然保護活動や観光振興において歴史的な積み重ねを有しており、また自然を基盤とする企業活動も活発であることから、エコツーリズムへの理解や必要性の認識に確かなものがある。これだけの多彩な参加者を毎回集めて議論の場を設定しうるだけのポテンシャルは、そう多くの地域にあるものではない。また青少年を対象とした環境教育の指導を行ってきた自然塾のワークショップ運営能力は高く、まとめる力量がある。構想策定への取組も安心感をもって支援できそうである。期待値も高い。

一方で、大きな会議体をボランティアベースで支えていくためには、モチベーションを絶やさずに済むよう、計画をしっかりと立て、メンバーの参加・活躍場面をふんだんに作ることと、事務局機能を分担するなどガバナンスが発揮できる体制づくりが重要である。目先の利益ではなく、10年、20年の地域づくりとして、

市や県の計画に盛り込み、公的なサポートを明確にしていくことが重要である。

## 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

前橋、沼田、高崎、桐生など「赤城」一帯の自然・文化全般に亘る高い資源性、みなさんの郷土愛の強さ、話し出したら立て板に水の多いこと、企業の方々の謙虚な姿勢など、感銘をうけることばかりです。エコツーリズムはこれまでの観光の取組や組織などの否定や塗替えではなく、新たな視点やルール、配慮を組み込んで地域全体と観光を見つめ直す、リセットの機会です。これまで繋がっていなかったところに橋をかけていく、そんなつもりで取り組んでください。事務局が疲弊しないことも秘訣です。

赤城の魅力は奥が深いのです。いずれはガイド養成なども行い、たくさんのプログラムとガイドを育てて行きましょう。